

日本の正月遊びで交流

茅野市内
3小学校

台湾の児童3年ぶり来訪

茅野市の湖東、米沢、豊平の3小学校で17日、教育旅行で来日している台湾新北市の私立裕徳国際学校・小学部の児童72人との交流が行われた。各校で行事が計画され、言葉の壁を越えて友情を深めた。県や同市などが受け入れを推進するインバウンド事業の一環。新型コロナウイルスの影響で中断していたが、3年ぶりに再開された。

(武井葉子)

このうち湖東小には台湾側の3～6年生23人が訪問し、全校を代表して4年1組(児童20人)が交流。歓迎のあいさつや記念品交換などのセレモニーに続いて、湖東小の児童が計画した日本の正月の遊び「けん玉」「お手玉」「福笑い」を行った。

湖東小の児童が「けん玉は膝を使うのがこつ」などと説明してから、両校が交ざり4グループで体験。通訳を介した交流で、最初は互いに緊張気味だったが、湖東小の児童が台湾の小学生に「ナイスキャッチ」「グッド」などと英語で語り掛けたりして次第に打ち解け、笑顔が浮かんだ。

湖東小の前原貫太郎君は「日本の遊びが上手でびっくりした。いつか台湾に行ってみたい」。裕徳小5年の林依承

身を乗り出して夢中で福笑いを楽しむ日本と台湾の子どもたち―茅野市湖東小学校

「日本はけん玉が上手でびっくりした。いつか台湾に行ってみたい」。裕徳小5年の林依承

(リン・イーチョン)さんは「日本のゲームと一緒に楽しめてうれしい。ぜひ台湾にも来てほしい」と感想を話した。台湾の児童は日本の学校の給食も味わった。

一行は15～20日の日程で訪日。同市には3日間滞在し、16、17日には長年交流のある白樺湖のホテル晴明荘に宿泊し、スキーや着物の着付けなどを体験。18日には、ちのD

MOの「いなかホームステイ」で農村生活を楽しむ。